2022 年 11 月 29 日

藤井誠一郎

第 16 回 全国大学政策フォーラム in 登別 参加報告

概要

2022 年 10 月 30 日（日）、ZOOM を利用して「第 16 回 全国大学政策フォーラム in 登別」が開催されました。

通常当該プログラムは、「全国大学政策フォーラム in 登別」として例年は 9 月初旬頃に開催され、全国から学生が登別市に集い、現地に存在する多種多様な課題についての解決策（政策）を提案し、その質を競い合うという形で進められます。2006 年に始まり、政策系、福祉系、工学系等の多様な専門領域のゼミが同じフィールドを分析し、それぞれの視点から課題解決のための政策提言を行う大会であり、その老舗の位置づけとなっています。

2020 年度は新型コロナウイルスの蔓延により中止となりましたが、大東文化大学のみで「出前講座」という形で大東文化会館と登別を接続して ZOOM で行いました。2021 年度は感染者数の高止まりが続いていましたので、通常とは異なる変則的な日程で ZOOM を利用して開催されました。今年度も感染者が高止まりしていたため ZOOM での開催となり、昨年度と同様の形での運営となりました。

例年のフォーラムでは、2 泊 3 日で登別市内にて現地調査、政策立案、発表、公表という流れで進められます。しかし、今年度も ZOOM での開催となったため、9 月末までに政策案を動画で記録して実行委員会に送り、それを参加者や審査員が事前に視聴しておき、10 月 30 日（日）のフォーラム当日は概要のみを説明し、それに対して質疑応答を行ったうえで、審査結果が発表されるという形で進められました。とりわけ質疑応答では、提言した政策について審査委員からピンポイントの質問が寄せられるので、それに的確に回答をするためにも、提言した政策についての深い理解が求められます。

この登別フォーラムへの参加は、2020 年度より「政治学インターンシップ（政策提言・登別）」、「政治学インターンシップ（政策提言展開・登別）」として単位認定されることになりました。本学からは、Aチーム（竹村舞菜さん、小野塚朱音さん、角谷有紀さん、赤澤ひかるさん）、Bチーム（上野結衣さん、武井花菜さん、中新井朋樹君、染谷拓己君、内河佳大君、菊池伶君、杉野凪さん）が参加しました。

今年度のフォーラムで与えられたテーマは、「外から観た登別市の SDGs、持続可能な開発目標を創造しよう!」です。登別市では、総合計画や地方版総合戦略の中に 17 の持続可能な開発目標（SDGs）を示しており、さらなる取組の推進につなげるために学生ならではの自由な発想による持続可能な開発目標を創造し、政策提言してもらうことを期待するという趣旨で開催されました。

政策提言に向けた現地調査として、9 月 5 日～7 日に参加者全員で登別市に視察に行きました。各チームに分かれて現地視察を行い、政策提言を行う上での情報を収集しました。帰京後、それに基づき政策案を練っていきました。

2022 年のフォーラムには、7 大学（立教大学、青森中央学院大学、金城学院大学、同志社大学、摂南大学、大阪国際大学、大東文化大学）と 1 専門学校（日本工学院）から 17 チームが参加し、政策提言を行いました。**審査の結果、今年度は受賞を逃してしまいました。**Bチームは今川晃賞の入賞まであと僅かで、大変残念な結果に終わりました。

両チームとも、一つの事を最後までやり遂げたという達成感や充実感に満たされていたようでした。特にAチームは２年生ばかりでしたが、大変奮闘したのではないかと思います。是非とも来年も参加していただき、今年度のリベンジを果たして頂ければと思います。

政策提言に向けた現地視察

政策提言に向けた現地視察を 9 月 5 日～7 日に行いました。2 泊 3 日の日程で、1 日目は到着後に登別温泉地区の散策を、2 日目はAチーム、Bチームに分かれて政策提言に関する現地調査を、3 日目は出発までの時間を追加調査や政策案の策定に当てました。

現地調査に先立ち、両チームともヒアリング箇所を選定し、そこへの質問項目を考えて事前に送付しておき、それに対する回答を得るという形で進めました。Aチームは川上公園や幌別ダムを調査し、Bチームは連合町内会事務局、クリンクルセンター、市民活動センター、コミュニティセンター等を視察し、それぞれ担当の方から質問に対する回答を得、意見交換を行いました。

Aチームは、検討していた案が、視察により実現できないという大どんでん返しを食らってしまいました。幌別ダム前の斜面に花を植えるのを検討していたのですが、防災上の問題で実現不可能と言われ、当初案は脆くも崩れ去るという状況に陥りました。このような大どんでん返しがあるのが現地視察の醍醐味でもあります。このような場合には、どのように乗り越えていくかが問われ、頭をフル回転させて整合性のとれた政策案に修正していきます。

通常ですと、視察の終了後は翌日のプレゼンテーションに向けて部屋に籠って準備を進めますが、今年度

は政策提言は 9 月末日でしたので、視察終了後はゆっくりと温泉につかる余裕がありました。何度も温泉に入り、登別温泉を満喫していた参加者もいました。次年度からは対面に切り替わると予測されますので、ゆっくりできるのは今年限りであったのかと思います。

1日目　温泉地区の散策

地獄谷にて

地獄谷を散策

大湯沼にて

天然足湯には雨天で入れず…

2日目　Aチームのヒアリングの様子

川上公園の芝生広場

幌別ダムにて

川上公園への視察

幌別ダムの見学

2日目　Bチームのヒアリングの様子

登別市民会館でのヒアリング

クリンクルセンター環境対策グループへのヒアリング

コミュニティセンターの視察

連合町内会事務局長鳴海さんへのヒアリング

フォーラム当日

10 月 30 日（日）に登別政策フォーラムが ZOOM にて開催されました。参加者には板橋校舎に集合してもらい、会議室のプラズマモニタで ZOOM 画面を投影してフォーラムに参加する形になりました。

市長の挨拶、実行委員長の挨拶に続き、Ｂチーム、Ａチームの順で概要の説明を行っていきました。3 分間のみの概要説明となりましたが、緊張が伴う時間でもありました。説明後には審査委員からの質問や他大学からの質問も寄せられるため、緊張がそのまま続いていきました。

Ｂチームについては、「集団回収に参加しない約 40%の人をどのように動かすのか」という質問がありました。Ａチームについては、「川上公園を選定した理由」について質問がありました。回答はどちらのチームもできたものの、審査員の質問の趣旨に沿っていたかについては疑問が残りました。この受け答えが審査に

影響したのかもしれません。

ZOOM を利用して行われました

市長からのメッセージを聞く様子

Ｂチームの発表は上野さんが行いました

Ａチームの発表は小野塚さんが行いました

各チームの政策案

　ここで、Ａチーム、Ｂチームの政策案の概要を掲載しておきます。

Ａチーム

・私たち大東文化大学 A チームが考えた政策のテーマは地域交流です。タイトルは「自然を楽しみながら健康になろう」です。

・はじめに、登別市の現状として災害時に情報伝達を行っていますが、近年声かけによる助け合いが減っています。自治会加入率 100%を目指している中、現状は 70%です。さらに加入率を上げるためにも、地域に関心を持つため交流が必要だと考えました。顔の見える付き合いを増やすことで孤立・孤独を減らしていけると考えています。

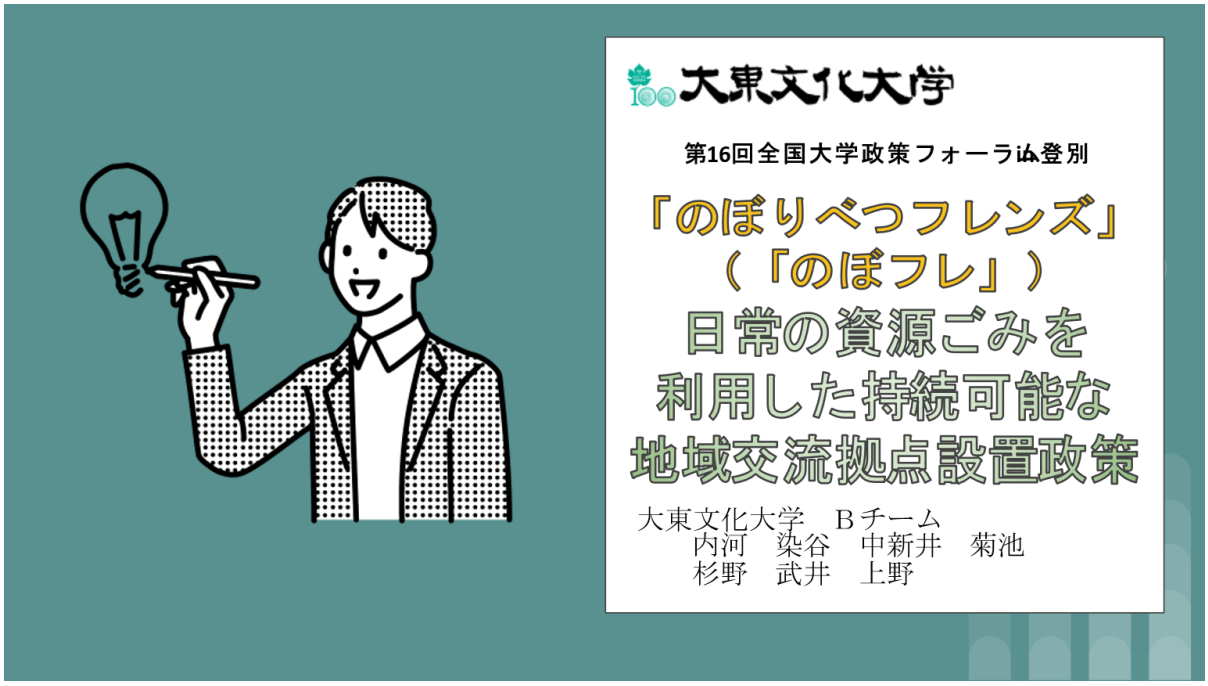
・次に、私たちの政策内容についてです。川上公園をメインに交流できる場をつくります。健康面に関しては、健康器具の設置、ウォーキングコースの作成、自然に関してはマリーゴールドを植えること。そして、種まきやお花見、懇親会などのイベントを通じて地域交流をしていきたいと考えています。

・続いて、期待される効果についてです。登別市全体の結束力の向上、多世代交流や登別市民の健康意識の向上、企業側としてはキッチンカーなどでフードロスの削減を後押しするため SDGs への取り組みのアピールや地域の人に愛着を持ってもらうことができます。地域外には地域交流のまち、健康のまちとしての知名度アップや温泉以外での登別のアピールポイントになります。

・最後に私たちの政策に関連する SDGs です。フードロス削減から、1 の貧困をなくそうと 2 の飢餓をゼロに。健康器具の設置やウォーキングコース作成から 3 のすべての人に健康と福祉を。地域交流や自然という観点から 11 の住み続けられるまちづくりを。お花を植えることから 15 の陸の豊かさを守ろうに当てはまると考えました。以上が私たちの提案です。ご清聴ありがとうございました。

Aチームの動画 「自然を楽しみながら健康になろう」 は以下のURLから視聴できます。
https://www.youtube.com/watch?v=XuKdvYsf-To

Bチーム



・大東文化大学 B チームの概要を発表します。

・私たちは、登別市を持続可能な安心して住み続けられる町にしていくためには世代を超えた地域交流が重要だと考えました。

・そこで私たちは、日常の資源ごみを利用した持続可能な地域交流設置政策、のぼりべつフレンズ通称、のぼふれの設置案を政策として掲げます。

・資源回収の場を地域交流の場として、利用することで希薄となった地域全体の交流の活性化を図ろうと考えました。

・のぼりべつフレンズとは、住民がごみ捨て感覚で気軽に立ち寄れる場所のことを指します。現在各地区のコミュニティセンターでサロンが開催されていますが、そちらを発展させていきます。

・屋内外にベンチ等を設置し、立ち寄った近隣住民がお話しやすいような場を設置します。

・具体的な政策といたしましては、元々あるコミュニティセンターや自治会館等を利用してそれらの場所で資源回収を行います。回収した資源ごみを登別市に回収していただき、資源回収の奨励金をもらいます。その奨励金をのぼフレの運営費に当てて活動の促進を図ります。

・初めは利用状況に合わせ、月２回の開催を目指します。
・一度に多くの地域で取り組みを始めるのではなく、希望した地域を絞った上でモデル地域を定めようと考えています。
・そこから成功例を重ねて他の地域に拡大させていこうと考えています。
・こちらは、SDGs の 11 番、住み続けられるまちづくりを、３番、全ての人に健康と福祉を、４番、質の高い教育をみんなに、12 番、作る責任･使う責任、主に４つの目標に関連しております。
・この政策により、分別に対する意識向上と実践強化が期待され持続可能な地域交流政策に充分に寄与することと考え以上の政策を提言いたします。
・ご清聴ありがとうございました。

Bチームの動画 「日常の資源ごみを利用した持続可能な地域交流拠点設置政策」 は、以下のURLから視聴できます。

https://www.youtube.com/watch?v=jD3ml5l0TKM

おわりに

今回のフォーラムでは、どちらのチームも入賞できず、残念な結果に終わりました。今後審査結果の詳細が公表されますが、おそらくは僅差であったと分かるのだと思います。それぞれのチームでは何が足りていなかったのかを今一度考えて頂ければ、そこにみなさんの今後の発展の素があるのだと思います。

おそらくは来年こそは、これまでどおりの運営に戻れることでしょう。是非、通常の登別フォーラムを体験してほしく思います。そして是非とも来年は入賞を果たしてほしく、皆さんのリベンジを期待します。

参加学生の声

政治学科 2 年生　小野塚朱音　さん

全国大学政策フォーラム in 登別に初めて参加させていただきました。運営事務局の皆様、大東文化大学の関係者の皆様、このような貴重な経験の機会を設けていただきありがとうございました。

私たち A チームは岩橋先生ご指導のもと、今年のテーマである持続可能な登別になるための政策を考えました。事前学習として登別市の資料を読み込み、どのような課題があり政策を行っているのか私たちなりに分析し、議論をし、温泉以外の観光スポット創設を軸に置き、検討を重ねていました。また、車社会の登別市には交通面の課題も見受けられたためそれらをふまえた政策を練っていました。大東文化大学の先輩方や、過去の他大学の提言を調べ、今まであまり提言されていなかった花畑という案にたどり着きました。幌別ダムの斜面に花畑を作り観光スポットにする。また、将来的には幌別川沿いを桜並木にする。予算や交通面の案も考えた上で、登別市での現地調査を迎えました。そこで待っていたのは、ダムの斜面に花畑を作ることは不可能だということでした。かなりのショックを受けましたが、そこから学んだことは大きいものでした。どのようなリスクがあるのかを考えること、どこからお金を出すのか、管理者は誰かを考えること。逆境からどう乗り越えるのか。これらは全て現地調査をしたからこそ分かったものであり、ヒアリング先では登別市の皆様の課題感や想いを知ることができ、政策に取り入れることができました。政策を提言するには徹底的に地域を知ること、またそこから先進事例はないか調べること。政策フォーラム当日は他チームの発表から着眼点の鋭さを感じました。

事前に電話やメールで可能な限り調査する。各々がいつまでに何をしておくのかという役割分担をし、タイムスケジュールを作成する。こういった今回学んだことを生かし、来年度もリベンジしたいです。

最後になりますが、改めてご協力いただきました登別市の皆様、岩橋先生、A チームのメンバーに感謝を申し上げます。皆様のおかげで多くの学びを得ることができました。ありがとうございました。

政治学科 2 年生　赤澤ひかる　さん

今回、登別政策フォーラムに初めて参加しました。私がこの登別政策フォーラムに参加して、印象に残っていることは、現地調査の大切さを実感したことです。

登別市に現地調査に行くまで、自分のチームの人たちとグーグルマップを使って、登別市はどのような物があるのか、どのような場所になっているのかなどをたくさん調べました。私たちのチームは、地域の人々の繋がりを強くすることをメインに政策を考えました。その中に、登別市にある川上公園と、幌別ダムの周りに、花を植えるという計画がありましたが、現地調査で幌別ダムの管理をしている人に話を聞きに行くと、「幌別ダムの周りは機械が埋まっているため、花や植物を新たに植えることはできない。」という内容のお話を頂きました。それにより、現地調査に行くまでに考えていた政策を考え直さなくてはいけないという想定

外の出来事が起こり驚きました。
　下調べをしていても、実際に現地に行って、現地の人たちに話を聞かないと、自分たちが考えている計画が可能か不可能かは分からないのだと実感しました。話を聞いたあと、限られた時間で、自分たちで話し合って政策を考え直すのも、とても貴重で良い勉強になったと思いました。参加して良かったです。

法律学科 2 年生　竹村舞菜　さん

　政策提言をすることは今回が初めてだったのでとても貴重な経験をさせていただきました。惜しくも賞をいただくことは出来ませんでしたが、私たちは４人で１チームになり全員で協力しながら満足のいく提言が出来ました。また、去年はコロナの影響で大学に行くこと自体が少なかったので、パソコンの画面越しではなく、実際に顔を突き合わせて議論していくことの重要さを改めて実感しました。
　実際に登別へ現地調査をして登別の現状を詳しく知ることが出来ました。現地の方にお話を聞いてみると、私たちがもともと考えていた案を実現することが難しいと言われ、政策を考え直さなければならないなどの壁に当たりました。しかし、登別の現状を踏まえながら再度話しあった結果、もともと考えていた案より良い政策を考えることが出来ました。現地の方はとにかく登別を良くしたいと熱意のある方ばかりで、私たちも前向きに政策を考えることが出来ました。私たちの住む町でも登別の方々のように町を活性化させようと取り組んでいる人達がいることを忘れてはならないと思いました。
　発表当日では、事前に準備することの大切さを改めて感じました。フォーラムに参加している学生から質問される内容を事前に把握し、質問に対する回答を用意しておきました。しかし審査員からの質問は当日まで分からなかったので、臨機応変に対応していかなくてはならなかったため、とても緊張感がありました。他大学の政策も良いものばかりでレベルの高い政策フォーラムだったと思います。
　今回のフォーラムに参加して、今まで考えることや触れることがなかった SDGｓや地域の問題について自分たちの目で見て深く学ぶことができ、視野を広げることが出来ました。また、多くの人の前で発言したり、目の惹く資料を作ったりなど貴重な経験をすることが出来ました。
　最後になりますが、私たちのためにご指導してくださった教授方、学生が提言する場を用意してくださった関係者の皆様、ありがとうございました。不安なこともありましたが、無事に終えることが出来て良かったです。今回の経験で学んだことを、これからの生活に生かしていこうと思います。

政治学科 2 年　角谷有紀　さん

　今回初めて登別政策提言フォーラムに参加しました。普段の授業では体験できない、現地に直接出向いて学ぶというアクティブ・ラーニングに魅力を感じました。政策を提言するのは初めての機会であり、また自分自身あまり発表が得意でないため、参加する前は不安がありました。政策を考えるにあたって、今まで聞いたことしかなかった登別という地域について事前調査をし、どのような提言をするか悩みながらメンバーと話し合いを重ねました。実際に登別を訪れて現地の方々にお話を聞いたところ、事前調査から学び計画していたことの実現が難しいと分かり提言内容を１から考え直すことになりました。他のメンバーと協力し、案を出し合って新たな政策提言をすることができました。コロナ禍ではありましたが、直接現地に視察に行くことができました。調査で得られたことはとても多く、現地調査の大切さを感じました。また、zoom を用いての質疑応答では自分たちの至らなかった点が分かりました。異なる視点からの質問をいただき、そのような見方もあるのだと気づかされ勉強になりました。
　このフォーラムを通して、協力して１つのことを成し遂げる達成感を得られました。そして、人と議論することに対する抵抗意識がなくなりました。この経験を活かし、受け身でいるのではなく積極的に何事にも取り組んでいきたいと思います。
　最後になりましが、チームのメンバーやサポートしてくださった岩橋先生をはじめとする多くの皆様に感謝いたします。このような機会に参加することができ、とても貴重な経験になりました。本当にありがとうございました。

政治学科3年生　菊池伶　君

　昨年度に引き続き今回も登別政策提言フォーラムに参加させていただきました。昨年は政策提言を考える上での取り組む姿勢や調査が足りず、順位も下の方から数えた方がはやく残念な結果となっていました。今回はその経験を活かし優勝を目指せる政策を提言しようと努力しました。
　夏期休暇中も週に一度は対面や zoom でミーティングを行い、意見交換を行いました。ミーティング内で出た意見をまとめ藤井先生にもフィードバックをもらいながら徐々に政策を洗練させていき、実費で現地までヒアリング調査を行いました。そこで現地の方とのギャップに気づき、政策をブラッシュアップさせる事が出来ました。
　結果としてはあと一歩のところで優勝を逃してしまい悔しさが残りましたが、今回の政策提言は昨年のものよりも良い提言になったと自信を持って言うことが出来ます。今回優勝を逃してしまった悔しさをバネに

今後のゼミの研究、就職後の生活に活かしていきたいと思います。
　最後にはなりますが、フォーラムを今年も開催してくださった関係者の皆様、ヒアリングに協力してくださった登別の皆様、チームのメンバーと藤井先生に心より感謝を申し上げます。
本当にありがとうございました。

政治学科 3 年生 中新井朋樹 君

　登別政策提言フォーラムでは、通常の授業では決して得ることのできない貴重な経験をし、多くの学びや気づきを得ることができました。
　その中でも、現地の現状・課題を正確に把握することの重要性について学べたことは私にとって大きな学びの一つです。私たちの班では事前に登別市の現状や課題をインターネットで調べ、ある程度の概要を思案し、現地に赴きました。実際に現場を歩き、市民の方々からお話を伺うことで、インターネットでは知り得なかった登別市の現状や課題、私たちの当初の思惑とのズレに直面し、案の見直しが迫られました。市民からの視点を欠き、現状に即していない案ではいくら机上での議論で優れているように見えても、全く意味のない無駄な提言になってしまうということを痛感しました。こうした経験を通じ、現状をしっかりと理解し、課題を正確に把握、その上で様々な角度から物事を考えるという視点を得られたように思います。
　私たちのチームが目標としていた今川賞には一歩及ばず悔しさの残る結果となりました。他大学と比較した際、提言の詰めの甘さやプレゼン時の魅せ方の欠落を痛感し「もっとやれることがあったのではないか」という後悔の念にも駆られました。しかし、それと同時に「悔しいと思えるほど頑張れた」という満足感もありました。大学生になり、コロナ禍も重なり、悔しいと思う機会が減っていく中で、こうした気持ちになれたこと自体が成長で、一生懸命向き合ってきた証拠でもあると思っています。入賞は逃したものの、仲間と協力し、案を出し合い、自分たちのできることを精一杯やったこの半年間は決して無駄ではなく、胸を張れるものであるはずです。フォーラム参加を通じて得た経験や学びを今後の人生にも活かしていきたいと思います。
　結びに、このような機会を提供してくださった登別市や実行委員の方々を始め、現地でお世話になった登別市民の方々、先生方、チームのメンバーにこの場をお借りして感謝申し上げます。

政治学科 3 年生 上野結衣 さん

　今回初めて登別政策フォーラムに参加させていただきました。登別の特徴や課題に合わせて政策を考えるのはとても難しく、インターネット上の情報だけでは分からないことがたくさんありました。それゆえに、二泊三日の現地調査はとても有意義なものでした。現地の方には私たちが考える政策に対して共感の声や、時には厳しいご指摘をいただくこともありましたが、より中身のある政策を作るヒントをいただきました。政策を考える上で、現地の声を聞く重要性を学びました。
　私たちは今回「日常の資源ごみを利用した、持続可能な地域交流設置政策」を提言させていただきましたが、この政策をいかに分かりやすく伝えるにはパワーポイントの作り方が重要だと感じました。構成や配色やフォントまで工夫したスライドを作ることができましたが、他チームのプレゼン力に自分の力不足を強く感じました。プレゼン力がなければ、政策を考えても相手にすべてを伝えることができないのだと感じました。他チームからも多くのことを学ばせていただきました。
　私たちは「今川賞」受賞を目標に参加しました。しかしその「今川賞」を受賞することができず残念な結果になりましたが、とても有意義な体験をさせていただきました。この政策提言で学んだ「ヒアリング力」や「プレゼン力」を今後に活かしていきたいと思います。
　最後になりますが、このような体験をする機会をくださった多くの関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

政治学科 3 年生 内河佳大 君

　私たちは藤井准教授のご指導の下、大東文化大学 B チームとして「第十六回全国大学フォーラム in 登別」に参加しました。この経験を通して、私は多くのことを学ぶことができたと思います。現地視察では、私たちがその時考えていた政策について、厳しい意見を言われたこともありましたが、現地の生の声を直接聞くことができ、より登別の現状に合った政策を提案することができたと思います。このことから、現地の方の問題に対する思いを知るなど、直接足を踏み入れることの大切さを学びました。また他大学の政策内容をすべて見たときには、登別という一つの地域でもこんなにも様々な政策ができるものかと驚きもしました。このことからは多角的な視点を持つことの大切さを学べました。
　結果としては残念ながら受賞することはかなわなかったですが、このような貴重な経験をできたこと私は嬉しく思います。最後になりますが、いまだコロナの脅威が完全に収まっていない中でも、感染対策をしっかり行ったうえで我々の現地調査に協力してくださいました関係者各位に改めてお礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

政治学科 3 年生　染谷拓己　君

この度は、全国大学政策フォーラムに参加しました。当初は、政策と言われましても、どう考えていく必要があるのかを正確に理解することができておりませんでした。実際に考えてみますと、地域の人口割合や産業、財政、コストだけでなく、自分たちの考案したアイディアが住民に寄り添ったものであるのか、実現可能性等にも目を配らなければならないという事を、実体験を通して学習することができました。非常に有意義な活動であったと、私は改めて思います。また、実際に現地に赴き、地域の現状を目と肌で感じた上で、住民や地方で活動をなされている方に直接伺う事は、普段の大学生活では体験できない貴重な機会でもありました。私達の為に、お時間を割いて頂いたことにつきましては、ありがたい気持ちでいっぱいです。励ましの声だけでなくお叱りの声も頂いた時は、大変驚きましたが、振り返ってみますと現地の方々も、私達の政策提言に対しまして、真剣に向き合った上で、私達の政策案がより良くなるために敢えて厳しいお言葉を下さったのだと私は思います。ここまで手厚いご指導や支援を頂く事ができましてとても嬉しかったです。

懸命な努力実らず、受賞を逃してしまう結果となってしまいましたが、今後の自分の人生の糧として生かせるように、日々の勉学を継続して行こうと思います。また、この活動を共に取り組んだチームのメンバーの一員として、私が活動できたことも大変嬉しく思います。

最後に、登別市に対する政策案を提言する活動は、多くの場面で役に立てるものであるように感じました。私としましては、現地の方々へのヒアリングを行った経験は、自分の研究論文の執筆の際に有効になると思いますし、また、就職活動で「学生時代に力を入れたこと」を聞かれた際への回答などに利用することができると考えています。

政治学科 3 年生　杉野凪　さん

昨年度の登別政策フォーラムに続き、今回は経験者として 2 度目の参加をさせていただきました。昨年度は、先輩方と協力し合い意見交換や調査を進め、「今川賞」までは届きませんでしたが「登別市議会議長賞」を頂くことができました。

今回のフォーラムでは、昨年の先輩に引き続きゼミ生として参加いたしました。昨年とは異なり今回は 3 年生チームとして、総勢 7 名でのチーム編成となりました。昨年とは大きく変わり、今年は事前調査のミーティングを Zoom ではなく対面で行ったため、より内容の濃い意見交換ができたと感じました。また、参加メンバーが増えたことで、より多角的な視点を盛り込んだ政策案を練ることができたと思います。

登別市での 2 泊 3 日の現地調査では、やはり事前にまとめた政策案とのギャップはあり、実際に現地で求められていることを知り、厳しい意見を頂くことで足を踏み入れなければ分からないことを知ることができより良い経験ができました。政策発表に向けての資料作りでは、昨年の経験を活かすことができたと思います。また、パワーポイントの作成ではそれぞれの特性を存分に活かすことで完成度の高いものをつくることができました。

迎えた政策発表では、質疑応答の際に緊張もありましたが自分の出せる力を発揮できたと思います。今年は、惜しくも賞を頂くことは叶いませんでしたが、不慣れな状況のなかでも各々が精一杯の実力を発揮できたと思います。また、この政策提言で協調性や独創力、コミュニケーションの大切さなど、より多くの経験を得ることができました。

最後に、このような機会を提供し支えてくださった藤井先生、共に協力してきたチームの仲間をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

政治学科 3 年　武井花菜　さん

私は今回初めて登別政策フォーラムに参加しました。自分でその地域には何が必要かを考えて政策を提言することは初めてで最初はとても大変で不安でした。現地調査に行くまでに、授業の時間以外に zoom を用いてみんなで遅くまで話し合いました。現地調査当日は、実際自分の目で見て肌で感じ、たくさんのお話を伺うことが出来たので、とてもいい経験ができたと思います。

どれだけ調べて現地に向かっても、答えられないことが多々あり勉強不足だと思うこともありました。しかし、現地調査から帰ってきて、話し合いを重ねてより一層理解を深められました。

今回、賞には届きませんでしたが、発表が終わったら達成感に溢れてとても充実した気分でした。これも、みんなで何度も話し合って、準備したおかげだと思います。この経験を就職活動や今後の活動に活かしていくつもりです。

最後に、このような機会を与えてくださった先生方や関係者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。